

学生の皆さん、2003年度の大学祭おめでとうございます。

年の回りは早く、三学部合同による第2回目の聖灯祭を迎える季節になりました。四季の移りは美しく、折々の草花がその変化に気づかせてくれます。大学の周辺を見ましても、葉と花が季節を連えて咲く彼岸花が、萩の花が、秋を告げております。オレンジの愛らしい金木犀が甘い香りを漂わせ、心を楽しませてくれます。日本の秋の花の代表としてはやはり菊でしょうか。紅葉の終わる頃には、山茶花の蕾が大きくふくくらみ開花を待っております。このように、一年を花を追って楽しめる環境は何と恵まれていることでしょうか。

今年のテーマは一花一とか、美しいですね。

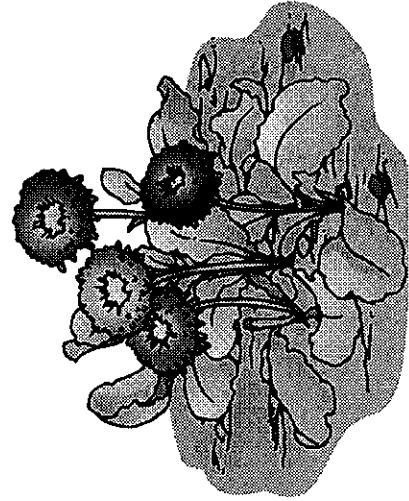
花は私達を楽しませ、喜ばせ、なぐさめ、時には力を与え、そして癒してくれます。花は私達の日常生活にとけこみ、花と共に生活しているように思えます。花は育てる楽しみもあります。土作り、肥料を水を与え、陽に当てるなど手をかけるほど応えてくれます。

また、生け花でも花の向きにより生き生きとしたり、反対に生気をなくしてしまふなど、花の扱いは難しいものです。芸術作品や押し花を楽しみ、そしていろいろな作品も作られております。一人でも、グループでも花を中心に様々な活動がされていきます。

美しい花々により学友の輪が広がられることは、人との交流をもって活動する専門職への道を歩む皆さんにとって得ることも多いと思います。

日頃は学業で忙しい皆さんが、その合間をぬって準備を進めることはご苦労もありましようが、それもまた楽しみとして頑張ってください。期待しております。企画された数々の催しにより、三学部の一層の友情が結ばれることを願っております。

聖灯祭の開催にご協力ご支援をいただきました皆様方に厚くお礼を申し上げます。



聖灯祭おめでとうございます。今年で二回目（2年日）を迎えたのですね。

今年のメインテーマは「花」ということだそうですですが、花のイメージはきれいで、色とりどりに個性をいかして大地一面に精一杯咲いているのを想像するのです。皆さんはどうでしょうか？

皆さんは『夢』を花に例えて、かなえる花を沢山、そしていろいろとそれぞれの人が咲かせてほしいと、果てしない未来に向かって躍動することを願ってメインテーマに託したのではないのでしょうか。それを聖灯祭で開かせたいとも。学園祭では授業中や実習では見られないその人の今まで知らなかった一面を垣間見ることができ、共に同じ目標に向かって励んでいる友に親しみを感じ友情としての絆を強めるのではないのでしょうか。同性や異性の友だちや複数の仲間と心をつなぎ活動を共有することは、他者と共感したり、親密感を抱くよい機会であり、また先輩、後輩の関係などを経験するという人間として自立していく過程では健康的な体験をするのだと思えます。11月1日だけのたった1日間の学園祭ですが、若人のできる限りののんびりなエネルギーを結集して、できるだけ多くの学生や教職員の方たち、また地域の人々が楽しんで参加してくださるような聖灯祭になってほしいものです。実行委員の方たちは毎晩遅くまで本当に頑張ってくださいました。みんなでもにも大きな花を開かせ、成功を祈りたいですね。

